

2年学年だより

大淀中学校 2年 平成30年2月2日 第38号

(^o^) 青春

「青春」を国語辞典で引くと、「十代後半から二十代前半の、明るく希望にもえる時期。若い年ごろ。若い時代。」とあります。

君たちは、まさに青春まっただ中ですね。いろいろ悩んで、考えて、生きていく時代ですね。

「青春という字を書いて横線の多いことのみなぜか気になる(俵 万智)」という短歌も思い出されます。

前号で中学時代の恩師の詩を紹介しました。恩師が眠っておられる墓石付近に建立された石碑に、「輝く青春 光る汗」ということばが刻まれています。

辞書で定義づけられている「青春」とは違って、年齢や時代の束縛から離れた「青春」というものがあるのでしょうか。

次の詩を読んでみてください。

青春

サミュエル・ウルマン作 岡田 義夫訳

青春とは人生の或る期間を言うのではなく

心の様相を言うのだ。

優れた創造力、逞しき意志、燃ゆる情熱、

怯懦を却ける勇猛心、安易を振り捨てる冒險

心、こう言う様相を青春と言うのだ。

年を重ねただけで人は老いない。

理想を失う時に初めて老いがくる。

歳月は皮膚のしわを増やすが情熱を失う時に精神はしぼむ。

苦悶や、狐疑や、不安、恐怖、失望、

こう言うものこそ恰も長年月の如く

人を老いさせ、精気ある魂をも芥に
帰せしめてしまう。

年は七十であろうと、十六であろうと、
その胸中に抱き得るものは何か。

曰く 驚異への愛慕心、空にきらめく星辰、
その輝きにも似たる事物や思想に対する

欽仰、事に処する剛毅な挑戦、

小児の如く求めて止まぬ探究心、
人生への歓喜と興味。

人は信念と共に若く、疑惑と共に老ゆる。

人は自信と共に若く、恐怖と共に老ゆる。

希望ある限り若く、失望と共に老い朽ちる。

大地より、神より、人より、美と喜悅、
勇氣と壮大、そして偉力の靈感を受ける
限り人の若さは失われない。

これらの靈感が絶え、悲嘆の白雪が人の心の

奥までも蔽いつくし、皮肉の厚氷がこれを固
くとぎすに至れば

この時にこそ人は全くに老いて神の憐みを
乞うる他はなくなる。

青春とは人生の或る期間を言うのではなく
心の様相を言うのだ。

年を重ねただけで人は老いない。

理想を失う時に初めて老いがくる。

青春とは、年齢に関係なく、心の在り方
いうのであれば、理想を失うことなく生きて
いきたいものです。

文語調で難しいことばもありますが、辞書
を引きながら、味読してもらいたいと思いま
す。

